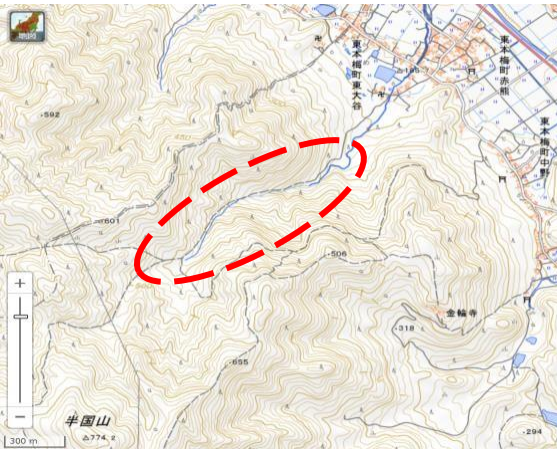


# 山行報告

7月24日 半国山・音羽溪谷

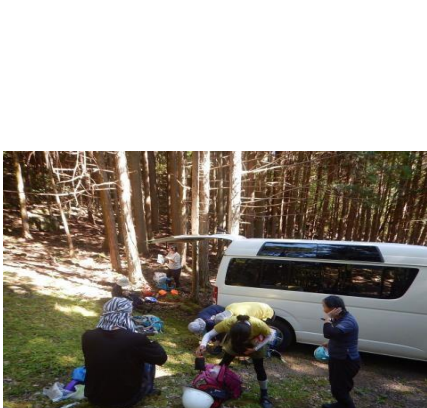
西川 洋

山名	半国山・音羽溪谷（沢登り）	山行名	例会
ルート	（亀岡市東本梅町） 赤熊・登山口～二俣手前・出溪地点～赤熊・登山口		
山行日	2021年7月24日（土）	天候	晴れ
参加者	CL：西川（洋） SL：木田 女性5名、男性3名 計8名		
	女性：北條、玉置、牧之瀬、原田、上杉		
	男性：西川（洋）、木田、田中（正）		

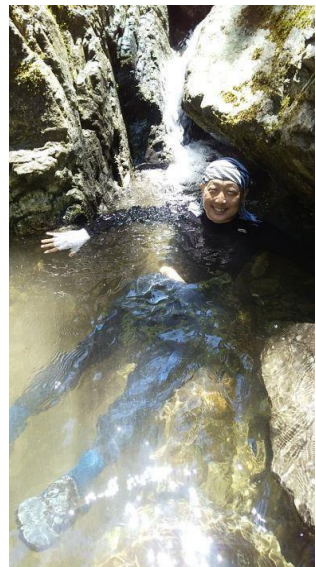
ルート概略図	コースタイム			
	地名	時:分	地名	時:分
	松井山手	着	湯ノ花温泉	着 14:00
		発 07:30	烟河 ケブリカ	発 15:30
	赤熊登山口	着 08:40	松井山手	着 16:30
		発 09:00		発
	入 溪	着 09:00		着
		発 09:10		発
	昼 食	着 11:50		着
		発 12:30		発
	登山口	着 13:00		着
		発 13:30		発

亀岡市の半国山赤熊登山口の扉を開けて、林道の終着点が駐車場。  
 駐車場で沢シューズに履き替え、そのまま200メートル歩いた先が入溪地点。すぐに沢登りが始まる。  
 早速に1.5メートルの岩登りに始まり、次々と大小の滝が出てきます。  
 この音羽溪谷、一番深いところで胸までの深さなので、泳げない人でも怖がることなく楽しめます。  
 音羽の滝や小音羽の滝など大小数十の滝があり、初心者にも十分に楽しめたかと思えます。  
 滑ったりして怖さを覚えるところは、すべてロープをかけて安心して登れるようにしました。  
 滑って転んで小さな怪我は、想定内のこと。この様に楽しく沢登りができる場所が京田辺から1時間ほどのところにあることが感激です。  
 帰りには温泉を楽しみ、夕方はまだ明るいうちに京田辺へ戻る事ができました。これからも毎年利用したいと考えております。

ヒヤリハット： なし







## 音羽溪谷 感想

玉置 安世

実は去年に沢に行こうとして沢靴買ったのですが全く行けず、今年叶いました。どぼんと浸かるところはないと聞いていたのでやや安心。いきなり T さんは深瀬に浸かっています。温泉みたいです。滝を登るのは楽しいですね。顔に水しぶきがかかり息が出来ない。深みにはまってバタバタとしているときに棒で支えて下さった K さん。足の届かない所を膝で踏み台にして下さった K さん。ロープで引っ張ってくれた N さん。楽しく涼しい時を過ごす事が出来ました。帰り温泉に入り解凍しました。同行の皆様ありがとうございます。また行きたいです。

原田 和嘉子

沢靴が履けなくて諦めていた沢登りですが、モンベルで私にも履ける沢靴を見つけてしまい、行きたくなりました。初心者向けとのことでしたので思い切って参加させていただきました。駐車場からすぐ沢に降りていきなり腰まで水につかった時はその冷たさと気持ちよさに感動しました。下界は猛暑日なのに沢がとても涼しいのにもびっくりでした。身体が硬くて足が上がらないため段差の大きな岩や滝を登るのは困難で皆さんの足を引っ張らないように滝はエスケープしました。横にずっと登山道があって助かりました。皆さんが果敢に滝登りをしておられるのを見て最後の滝だけ登らせていただき、なんとか登れて嬉しかったです。せっかく靴を買ったので岩登りを練習してまた簡単な沢には挑戦してみたいです。

北條 都

山には登るけど、沢登りは怪我が怖いのでしませんが、同じ年の K さんが今年デビューするという事なので、それでは私もということで沢に挑戦することにしました。

当日は、非常に暑く沢登りには打って付けの日で、この気持ちよさが沢登りの醍醐味なのかと、はまる人の気持ちが少し分かった気がしました。

音羽溪谷は、あまり川幅も広くないし、深さも足が着かないところはほとんどなかったもので、流れに逆らって小さな滝を登っていくのはとても面白かったです。

とはいえ、これをきっかけに、沢登りにはまるかどうかはまだ分かりません。だけど、機会があればもう少し挑戦したいと思っています。

CL, SL さん初心者の参加者ばかりで大変だったと思いますが、いろいろとアシストありがとうございました。

木田 修司

昨夏の比良山行で「沢登り」の楽しそうな体験を聞き、2021 年度山行計画に近場の「入門コースの沢」を提案させていただいた。

山行部会での調整の結果、未経験者の私が S L になってしまった。「音羽溪谷」は、山友会ではこれまでに入溪されていないようなので、参加者の安全確保のために熟練者の O さんに無理をお願いして、CL、H さんの 4 名で 7 月 4 日に下見を実施した。

これまでの私の山行では溪流の徒渉は入水しないよう注意をしながら渡っていたのだが、わざわざそ

の溪流の中を選んで登ると言う「沢登り」に、少しの不安と戸惑いながらリーダーを見守った。

「初めての沢登り」は、奇妙な思いを抱きながら最初の一步を踏み出した。そして直ぐに、下肢を冷やしてくれる清流の心地よさを味わった。その後は水遊びを楽しんだ子どもの頃のように、ザブザブと冷水の中を歩く楽しみを味わった。また、昨夏の汗だくの比良山行を思い出し、沢登りの快適さに十分満足することができた。

本番の沢登りでは下見で現地の把握が出来ていることで、初心者の参加が多い中でも安心して沢登りを楽しむことができた。昼食食材の購入やトイレ、着替え用テントの確認や準備なども含めて下見・調査の大切さを実感した。

また、近場で時間的余裕もあったことから当初からの予定通り、温泉入浴も楽しむことができ、今後の山行計画の中に温泉入浴を組み込めたいと思っている。

今回、SL体験も初めてでCLとの調整などを参加者に十分伝えられていなくて、皆さんにご迷惑をおかけしてしまいました。次回以降はもっと気を付けたいと思っています。

参加者の皆さま、ありがとうございました。

牧之瀬 久佳

初めて沢登りを初体験し、その楽しさをお伝えできればと投稿します。

まず、計画を立案し現地の下見をして頂いたCLの西川さん、SLの木田さん、北條さん本当にありがとうございました。

普段の山行と違った服装、沢シューズ、ヘルメットにザックの中身のポリ袋装備をして、さあ沢へ。樹々の下の沢歩きは日常の真夏の暑さから逃れ、流れに浸した足元から心地よい。

歩き進める足の置く石が此方の石かそちらの石かと注意を払いバランスを取って歩くのも楽しい。

歩くにつれ腰までの深さの大きな溜まりに来ると誰かさんは全身を温泉気分で浸かっている。

さて滝が現れては、よじ登っていくには、Yケンの実地が役立ったと思う。

自分の身丈以上の滝をよじ登る際は西川さんが先行してロープを降ろしてくれては、引き上げてくれて、下からは、木田さんが補助をしてくれました。本当に感謝でした。

一人一人が上り終えるまでその人を皆で最後まで見守る。一本のロープを皆が次々と登って行ったという充実感は素晴らしかった。

山登りが強い連帯感を生む所以がここにあると感じました。

帰り道は沢の側道を降りながら登ってきた滝を眺めては、よく登ったのだと満足しました。

帰路の途中、温泉によれたのが当日のご褒美。体を温めほっこり。

沢登りの楽しさをお伝えできれば幸いです。

最後に、同行して下さった皆様有難うございました。